

## 夏が好き

大森 海太

六月末の土曜日、それまでの鬱陶しい日々から一転して三十五度に達する夏日となった。都内でも熱中症が何十人も出たとかで、梅雨はどこへ行つたやら。

こうなるともう、じつとしてはいられない。どこかへ出かけよう。そうだ、しばらくぶりに合羽橋へ行こう。あそこなら我が家から都バスで三十分。外は青空で照り返しがキラキラ、いやあ夏が来たのか。夏はいいなあ。

菊屋橋から合羽橋にいたる道具街通りは数百メートルにわたって両側に私好みの器や料理道具の店が立ち並び、外国人の姿もチラホラ。あれがいい、これもいい、欲しいものばかりで行ったり来たり。でも「また買ったの！」とカミサンに叱られそうだし、結局自宅晩酌用の小さな鉄瓶をひとつだけ購入した。

時計は正午を回り、暑さ真つ盛り。よせばいいのに帰りは歩きと決心し、西に向かつてスタートした。さすがに人通りも少なく、帽子をかぶっていないので頭のとっぺんから汗が噴き出す。

昭和通りを歩道橋で渡り上野駅からJRの線路を越え、上野の山に入ると木立のなかは風が快い。蓮の葉がっぱいの不忍池を左に見て池之端、弥生町から言問通りに入り、本郷通りを渡り西片の丘を越え白山通りを抜けて我が家に着いたときはすっかりアゴがあがり、ペットボトルの水は空になっていた。

私は散歩が好きなので一年中歩いており、歩きながらに日本の四季を肌で感じとる。正月が過ぎてまもなく梅がチラホラ、続いて桜満開となりしばらくすると新緑の季節。梅雨が明けるといよいよ夏到来。そのうちに日が短くなり葉が落ちて、ものの哀れが身に沁みるころ一年が終わる。人生を一年に例えると、我が身は早くも年末に近づきつつあるのだが、でも気持ちだけはまぶしい夏の日。

というわけで翌日も暑かったけど懲りずに出陣。南向きの緩やかな坂を下るとき、全身に強い日ざしを浴びてハッピー。やっぱり夏だ夏が好き。夏空の下、心は躍る。

かげの声「じーじ、無理しないでね・・・」